

<緊急シンポジウム> とどまることを知らない暴力 ～私たちが今ガザで目にしていること～

日時：2023年11月7日(火)

18:00～20:00

会場：明治学院大学白金キャンパス

本館10階大会議室

* Zoomウェビナーを使用したハイブリッド開催

申し込み不要
参加費無料

学内外どなたでもご参加いただけます。



オンライン参加をご希望のかたは
こちらからお申し込みください。

10月7日に始まったハマスによる攻撃とイスラエルの報復。すでに多くの市民が犠牲となり、恐怖と不安に日々さいなまれています。さらにイスラエルは、連日の大がかりな空爆、パレスチナ・ガザ地区の軍事包囲に加え、一部の地上戦を開始したこと、その中で犠牲者の数が激増していることが報道されています。

こうした事態を受けて、PRIMEとICRC駐日代表部は、共同で本シンポジウムを緊急開催します。凄惨な暴力の応酬と市民の犠牲を国際社会は止めることができるのか？日本の私たちにできることは何なのか？参加者の皆さんとともに考えたいと思います。

<プログラム>

第1部：基調報告

1 榛澤祥子（赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表）

「いまイスラエルとガザで起きていることー“国際人道法の守護者”の立場から」

2 早尾貴紀（東京経済大学教授）

「イスラエルにとってガザ地区とは何か？ー占領の本質を問う」

3 東澤靖（明治学院大学教授、PRIME所員）

「憎しみと恐怖の戦争に、どう立ち向かうことができるのか」

第2部：パネルディスカッションと質疑応答

モデレーター：阿部浩己（明治学院大学教授、PRIME所長）

共催 赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表部
明治学院大学国際平和研究所(PRIME)

お問い合わせ

明治学院大学国際平和研究所（PRIME）

■ TEL : 03-5421-5652 ■ E-MAIL : prime@prime.meijigakuin.ac.jp

■ URL: <http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime>

<登壇者紹介>



榛澤祥子（はんざわ・しょうこ）

赤十字国際委員会（ICRC）駐日代表。2019年にICRCに入り、駐日代表部の人道調整顧問として政府をはじめ関係当局との協力を強化。中立・公平・独立の人道の諸原則に基づいたICRCの活動や、国際人道法の普及に努める。2023年6月より現職。ICRC以前は、外務省や国連難民高等弁務官事務所、国境なき医師団に勤務するなど、10年以上人道支援の分野に携わっている。アフガニスタン、イスラエル・パレスチナ、ミャンマーなどにも赴任。米国コロンビア大学で国際関係学の修士号を取得。



早尾貴紀（はやお・たかのり）

東京経済大学教員。パレスチナ／イスラエル研究、社会思想史研究。2002～04年にパレスチナの東エルサレムに在住しながら、ヨルダン川西岸地区・ガザ地区でフィールドワークをした。著書に『パレスチナ／イスラエル論』（有志舎）、『ユダヤとイスラエルのあいだ』（青土社）など。訳書にイラン・パペ『パレスチナの民族浄化』（田浪亜中央江との共訳、法政大学出版局）、サラ・ロイ『ホロコーストからガザへ』（岡真理、小田切拓との共訳、青土社）など。



東澤靖（ひがしざわ・やすし）

明治学院大学国際平和研究所(PRIME)所員、同法学部教授、弁護士（日本、NY州、カリフォルニア州）。近著に『国際人道法講義』（東信堂2021年）、『国際人権法講義』（信山社2022年）。



阿部浩己（あべ・こうき）

明治学院大学国際平和研究所(PRIME)所長、同国際学部教授。専門は、国際人権・難民法。主な著書に、『国際法を物語るI～IV』（朝陽会、2018～2021年）。『国際法の人権化』（信山社、2014年）、『国際法の暴力を超えて』（岩波書店、2010年）等。

会場へのアクセス

* 白金キャンパスの本館10階です。横浜キャンパスではありませんのでご注意ください。

* キャンパスまでのアクセスはこちらをご覧ください →

